

日本人中国語学習者の「ヒト表示」に関する 誤用分析

袁 曉 今

1. はじめに

中国語教育において、学習者の「誤用分析 (error analysis)」は50年以上の歴史を持つ、既に確立された研究分野であるといえる。60年代から始まり、魯健驥 (1984)¹⁾の「中間言語 (interlanguage) 理論」のもとでの誤用分析研究を契機に、本格的で理論的な研究が始められ、その後、数多くの成果が蓄積されている。「誤用分析」は言語習得理論、中国語の文法研究、中国語教育の発展に欠くことのできない研究分野となっている。

1.1 先行研究

「日本人の中国語学習者」を研究対象に絞った誤用分析の専門書は以下の通りである。狄昌运 (1996) は、主に「構文」における誤用分析をしている。吴丽君 (2005) は、誤用を「文法」「語彙」「文章」「文化」の四つの観点から体系的に分析している。王顺洪 (2008) は、「日本人の中国語学習」に関する専門書の一章で、「字」「音」「語」「文」の四つに分類した上で誤用分析をしている。杨德峰 (2008) は、誤用の是正を目的にした学習者の参考書である。「品詞別語彙」「文成分」「文型」「談話」の四分野に及ぶ。

研究論文については、数多くの研究成果が残されている。ここで逐一紹介することは割愛するが、概観すると、一文法項目にフォーカスする研究が多い。また、初級学習者を対象とする「語 (word)」「文 (sentence)」レベルの研究も多いが、中上級学習者を対象とする「談話 (discourse)」レベルの研究がやや少ない印象を受ける。

1.2 研究目的

本研究は中上級レベルの日本人中国語学習者が叙事作文の中で、「ヒト

に関連する表現」の様々な誤用を研究対象としている。なぜ、「ヒトに関連する表現」に注目したのか。筆者自身の一つの教育実践から問題意識が生まれている。

2022年前期、ある専門科目の受講生（大学3、4年生で中国語の学習歴は2、3年）14人に対して、毎週、「中国語で書かれた新聞、書籍、雑誌を閲読し、もしくは中国語で放送される映画、テレビドラマ、その他の番組を視聴した上で、200字前後の中国語による学習報告書を提出せよ」という課題を出した。多くの学生が、書籍では「小説」、放送では「映画」と「ドラマ」、つまりフィクションを選んで、報告を書いた。従って、「登場人物」が展開する「物語」の要約が主な報告内容となり、そこでは必然的に「ヒトに関連する表現」が多く使われることになった。

この結果、筆者は提出された報告書の中に、予想以上の「ヒトに関連する表現」の誤用を発見するに至った。それらの大多数はこれまでの教材では、未だ取り上げられていない、または十分な解説が盛り込まれていない誤用であった。筆者も予期しなかった誤用が多く、その原因を突き止める必要性と、その分析の多難さを痛感した。

また、言語は、人が人に情報と感情を伝達する手段である。「ヒト」「モノ」「コト」の中でも、「ヒト」が中心的主体である。従って、「ヒトに関連する表現」は言語を操る我々人間にとって、最も重要で関心のある分野であると言える。本稿では、「ヒトに関連する表現」を「ヒト指示（代名詞を用いる人物指示）」と「ヒト表示（それ以外の人物指示）」に分けて検討する予定だが、紙幅の制限により、今回は「ヒト表示」の誤用分析に止め、「ヒト指示」の誤用分析については、別稿で論じることにする。

本稿は、従来の「語」「文」「談話」というカテゴリー、つまり文法単位の昇順に沿って、誤用分析を展開していくのではなく、「ヒト表示」に焦点を当てて、そこで発生する誤用をピックアップし、誤用頻度の高い順から分析することを試みた。そこで、「ヒト表示」特有の誤用と「ヒト表示」に関連した誤用を分析して、様々な原因や特徴に合わせて教学現場へ提案を行いたいと考えている。

1.3 研究概要

前段で述べたように、14名の学生から10週間で計140本、合せて35000字の学習報告文が得られた。そのうち、ニュースを取り上げた学生2名と

経営学の専門書を取り上げた1名を除き、11名の学生が小説、映画、ドラマを報告書の題材としていた。そして、11名分の110本、約28000字の「物語」について述べた中国語作文から、結果として、合計818か所の誤用を発見した。その中から、「ヒト表示」に関連する誤用113か所、「ヒト指示」に関連する誤用63か所、計176か所の「ヒトに関連する表現」の誤用²⁾を抽出した。これは誤用全体の約22%を占める。

63か所の「ヒト指示」に関する誤用分析は別稿に委ねることとし、次に113か所の「ヒト表示」に関する誤用を類型ごとに分け、それぞれの原因を分析した上で、「教材」と「教授者」のそれぞれの観点から教学現場への提案を述べることにする。

2. 誤用の類型・原因及び対策

ここからは、誤用の多い順に「誤用の類型」を列举し、さらに、それぞれの類型ごとに、「誤用の原因」「誤用の対策（教学現場への提案）」について論述する。誤用例を挙げると同時に、その後に修正文（正用例）を示す。修正箇所は下線で示し、修正前の欠落部分や修正後の削除した部分については、「 ϕ 」で表記する。なお、本稿で用いた例文中には、「誤用の類型」として指摘した部分以外にも、幾つかの例文で若干の誤用があったが（本稿の分析には関連がないため）、筆者が修正した上で例示している。

2.1 同格語（誤用数：17か所 原因：負の転移）

- 1) * 路夏的学长的贺兴隆也有个问题。
路夏的学长贺兴隆也有个问题。
- 2) * 警察马上跟同一所大学的毕业生的汤川联系了。
警察马上跟同一所大学的毕业生汤川联系了。
- 3) * 这本书的主人公，五浦大辅有个特殊的“体质”，那就是不能看书。
这本书的主人公五浦大辅有个特殊的“体质”，那就是不能看书。
- 4) * 女主人公（乔晶晶）和男主人公（于途）曾经是同班同学。
女主人公乔晶晶和男主人公于途曾经是同班同学。
- 5) * 主人公是个叫石神的数学老师，他对邻居的叫靖子的女生有好感。
主人公是个叫石神的数学老师。他对邻居靖子有好感。
- 6) * 马琳菲斯非常恨他，就诅咒一个叫奥罗拉的他女儿。

马琳菲斯非常恨他，就诅咒他女儿奥罗拉。

「同格語」は中国語では“同位語”と呼ばれ、語または文節がほかの語または文節と文構成上の機能において同一の関係にある。そして、同じ文法成分（主語か目的語）に充当する N1 と N2 の間には、“破折号（—）”以外の文法成分を挿入することはできない（張斌 2010: 324-329）。従って、同格関係の組み合わせの際には、名詞性成分を並列させるだけで足り、日本語の「の」に相当する“的”は使わない。

本稿で集めた誤用の中で、最も多かったのが同格語の誤用であった。同格語に関する基本知識が著しく不足していることが浮き彫りになった。

例 1、2 のような誤用が最も多い。“的”が挿入され、明らかに「母語からの負の転移 (negative transfer)」³⁾ であると考えられる。例 3 では、主人公と名前の間に、“逗号 (,)”を挿入している。これは学習者が既に習得済みの「英語の負の転移」だと考えられる。例 4 では、男女の主人公の名前に () を付している。語彙、文法上の間違いとまで言えないが、中国語の表記の習慣にそぐわない。例 5、6 では、同格語を活かして自然な中国語を書くまでの力量がなかったために回りくどい表現になってしまった。

このタイプの誤用については、やはり現行の教材、教授者の側にその原因があると考えざるを得ない。現行の教材においては、「同格語」は空白地帯と言えよう。「同格語」に言及している数少ない参考書では、例えば、相原 (2016: 36) では、“我妹妹燕燕 (私の妹の燕燕)” の例を挙げ、「同格語はそのまま並べる」とのみ説明しているが、決して十分とは言えない。

以上を踏まえて、「同格語」の学習を初級の段階から教材や参考書に盛り込むことが急務であると考えられる。また、教材、参考書の弱点をカバーするために、教授者による副教材の作成や説明の補足が望まれるところである。さらに作文の授業においても、「同格語」に関する特別の指導が求められる。

2.2 数量詞（誤用総数：10か所）

数量詞の誤用は以下の 3 つに分類され、いずれも教学上の弱点と言える。

2.2.1 数量詞の欠落（誤用数：6か所 原因：負の転移）

7) ※ 一天 ∅ 叫工藤的男子来到靖子那儿。

一天 一个 叫工藤的男子来到靖子那儿。

- 8) ※ 她一个人哭的时候, 王丽 (新同学) 安慰了她, 她们成了好朋友。
她一个人哭的时候, 一个叫王丽的新同学安慰了她, 她们成了好朋友。
- 9) ※ 隔壁的房间搬来的女子叫安迪, 她是 φ 公司高管。
隔壁的房间搬来的女子叫安迪, 她是 一名 公司高管。

初級中国語では、「存在」と「出現／消失」を表す「存在文」においては、存在する「ヒト」「モノ」「コト」に関して、“有界（個体化）”の機能を持つ数量詞をつけなければならないことは既に学習している。しかし、日本語においては、「有界（bounded）」「無界（unbounded）」は区別されず、日本人学習者は「母語の負の転移」によって、「存在文」を産出する際、往々にして数量詞を欠落させる。この誤用は、指摘を受けても根強く残り、定着化（fossilization）する傾向がある。本稿の作文コーパスの中からも、一定量の誤用が見つかった。

この誤用を分析すると、学習者は「存在」については「存在文」として捉えているが、一方、「出現」については（例7、8、9は人物の登場を指すが）、「存在文」と認識していない可能性が高い。

中上級者でも、依然として、数量詞の欠落問題はクリアされていない現実がある。今後、教材では、「出現／消失」を表す「存在文」の例文と練習問題を強化し、教授者もそれについての解説を十分に尽くすべきである。

2.2.2 数量詞の余剰（誤用数：2か所 原因：過剰一般化）

- 10) ※ 一个叫石神的男主人公
男主人公叫石神／男主人公石神
- 11) ※ 一个国务大臣叫贾方, 不喜欢阿拉丁。
国务大臣叫贾方, /国务大臣贾方不喜欢阿拉丁。

楊徳峰（2008: 51–52）は、“一个（1人の）”の誤用について、以下の例を挙げている。“我家有一个爸爸，一个妈妈和一个弟弟”。2.2.1で述べたように、学習者は初級段階の「存在文」において、「数詞＋量詞＋名詞」という統語構造を徹底的に学習させられる。その結果として、過剰一般化（overgeneralization 吳麗君2005: 261）⁴⁾を引き起こすと推測できる。通常、両親は唯一無二の存在であり、“一个（1人の）”は過剰表現である。一方、弟は複数存在の可能性があり、数量詞“一个”が必要とされ、“我家有爸爸，

妈妈和一个弟弟，四口人。”となる。さすがに、中上級においては、家族構成を述べる際に、このような誤用は見られなくなったが、例10、11の「男主人公」「国务大臣」のようなオンリーワンの語義を持つ名詞については、「過剰な一般化」によって、数量詞を置いてしまったと考えられる。

この誤用については、今後、中級レベル以上の教材と講義において、「数量詞」の制約を受けない統合構造や語彙についての解説を加えていく必要があると考える。

2.2.3 数量詞の語順 (誤用数：2か所 原因：過剰一般化)

- 12) ※ 我看的电影的内容是因为交通事故失去了记忆的一个男人的故事。
我看的电影的内容是一个因为交通事故失去了记忆的男人的故事。

初級段階の「存在文」における「数詞＋量詞＋名詞」という統語構造の徹底的な学習の「負の効果」として、2.2.2でその問題点を述べたが、このほかにも、「過剰一般化」によるとみられる誤用がある。それは、「数量詞は名詞の直前に置かなければならない」との誤解を生じさせ、それが誤用の原因になっていると考えられる。例12のように、「修飾語＋数詞＋量詞＋名詞」は誤用で、「数詞＋量詞＋修飾語＋名詞」が正しい構造である。今後、この点に関しても、教材と教授者の解説が充実されるべきである。

2.3 類義語 (誤用数：10か所 原因：学習不足)

- 13) ※ 主人公是一个叫木兰的女人。
主人公是一个叫木兰的女子。
- 14) ※ 张维中介绍了《蜗牛食堂》的日本作家小川糸。
张维中介绍了《蜗牛食堂》的作者／作者—日本作家小川糸。

女性を意味する語としては、“女子(女の人、カテゴリーとしての女)”“女生(女子学生)”“女孩儿(10代20代の女性)”“女人(通俗的な表現での女、成人女性)”“女性(科学、法律の分野でよく使われる生物学的な女)”“女的(口語での女の人)”等の類義名詞が多数存在している。それにも関わらず、文体による分業については、学校文法ではほとんど学習しないため、意味的な誤用がしばしば生じる。張博(2008: 167-171)では、“女人”の誤用は「英語 woman の負の転移」と指摘し、中国文化においては“女人”

は「成人女性」というより、「既婚女性」に使われ、場合によっては「マイナスなイメージ」に直結するような言葉であると述べている。例13の“木兰（ムーラン）”は18歳の若さで病弱な父親の代わりに男装して出征した、中国を代表する「英雄少女」であることから、明らかに、“女人”を用いたのは適切ではない。

例13のほかに、“情人”と“恋人”の混同なども観察された。このタイプの類義語の誤用についての先行研究は多く、ここでは取り上げない。張博（2008: 185-195）などを参照されたい。対策としては、教材の一部に「類義語の使い分け解説」のコーナーを設けるなどの工夫があれば学習者の役に立つのではないかと考える。また、教授者が類義語辞典、参考書もしくは自作の副教材、練習帳を作り活用することで、より一層の効果が期待される。さらに、ここでは、「コーパス」の活用を提案したい。教材や辞書の例文数が限られる中で、語彙の意味特徴を十分理解するには、コーパスからその類義語を含む文を検索し、例文群から特徴を抽出する訓練をすることが非常に効果的だと考えている。

また、例14の“作者”と“作家”の混同などの誤用も見られた。このような動作主名詞（agent noun）の意味特徴を区別するには、「クオリア構造（qualia structure）」や「個体解釈（individual level）」「事態解釈（stage level）」等の理論が有効である。これらの知見を適度に中上級の教材に盛り込むことも併せて提案したい。具体的には、袁（2014: 61-66）、袁（2021: 183-184）、を参照されたい。

2.4 登場人物・役者等に関する紹介（誤用数：9か所 原因：学習不足）

- 15) ※ 剧中有四个重要人物，两个男人两个女人。男一号和男二号是朋友，女一号和女二号也是朋友。女二号很有钱，常常让女一号替她去相亲。有一次，女一号替她与男一号相亲的时候，…
- 剧中有四个重要人物，φ男一号◎◎和男二号○○是朋友，女一号□□和女二号△△也是朋友。△△很有钱，常常让□□替她去相亲。有一次，□□替她与◎◎相亲的时候，…
- 16) ※ 这是一个爱情故事。男人喜欢女人，可是女人不喜欢男人。她想跟有钱人交往，但一年后，她决定跟他交往了。可是他们最后还是分手了。过了几年再次见面，他已经结婚了，她觉得很难过。
- 这是一个爱情故事。男主人公叫○○，他喜欢一个叫△△的女孩儿，

可是△△不喜欢他。△△想跟有钱人交往，但一年后，她决定跟○○交往了。可是他们最后还是分手了。过了几年再次见面，○○已经结婚了，△△觉得很难过。

- 17) * 男一号(徐凯)叫朱瞻基，女一号(吴谨言)叫姚子衿。
男一号(徐凯饰)叫朱瞻基，女一号(吴谨言饰)叫姚子衿。
- 18) * 我觉得这个作品中的安迪(实名是刘涛)长得很像吉田羊。
我觉得这个作品中的安迪(刘涛饰)长得很像吉田羊。
- 19) * 张维中介绍了《蜗牛食堂》的作者—日本作家小川糸。(张维中是这本书的翻译。)
译者张维中介绍了《蜗牛食堂》的作者—日本作家小川糸。

例15、16は、男女の主人公が誰なのか、最後まで明かされないままである。勿論、学習者も故意に内密にしたわけではないだろうが、謎に満ちた物語になってしまった。「物語」の粗筋を書く場合に、母語でなら主人公の名を入れ忘れるような間違いはしないはずである。なぜ、中国語だとそのような事態に陥るのか。中国語では、一文で「物語」や「出来事」を述べる場合には、登場人物の名を知る、知らないに関わらず、“一个+ヒトを表す名詞(あるヒト)”として具体名を出さずに簡潔に紹介することが一般的である。一方、段落で「物語」や「出来事」を描く場合には、登場人物が読者の既知の人物である時には、習慣的にそれを伝える。これは書き手と読み手との約束事であり、「定型文」と言っても過言ではない。

例17、18は、中国語で役者を紹介する場合の「定型文」の慣習に合わない例である。例19では、学習者に訳者・原著者を一文で紹介する作文技術がないために、二文になってしまい、回りくどい表現にならざるを得なかった。一文で表現する技術の習得が必要とされる。

例19のように、日本語では、()を用い、補足説明を行う場合がしばしばあるが、中国語では、()を用いての説明形式はあまり採用されない。

ここで例示した文を「誤用」と判定すべきか否かはやや悩ましい。語彙・文法上の間違いではないので「誤用」の検討から除外すべきとの考え方もある。そこで、これまでこの問題については軽視され、研究対象とされてこなかった経緯がある。しかし、中国語の習慣にそぐわないという観点から、筆者としてはこれを座視せず、中上級の中国語教育における「盲点」と捉え、以下のように教学現場に提案したい。

今後の中上級の教材については、題材の多様性だけでなく、豊富な文体に接することができるように配慮されなければならない。そこで、「物語」、またはその要約のみならず、「エッセイ」「論説」「書簡」「取扱説明書」「対談」「学術論文」等、多方面のコンテンツを扱うことが望ましい。一方、教授者には、作文指導の際に、様々な分野の「定型文」の解説を丁寧に施し、参考となる閲読書籍を学習者に示し、読書報告を課すなどのきめ細かい教育実践が期待される。

2.5 目的語（誤用数：9か所 原因：負の転移）

- 20) * 路夏与张百杨开始了第三场比赛。比赛中，路夏看明白了张百杨的球技，想出了打败他的方法。
路夏与张百杨开始了第三场比赛。比赛中，路夏看明白了张百杨的球技，想出了打败他的方法。
- 21) * 这时空姐发现一位女乘客眼中泛着泪花，她递给了他一条凉毛巾。
这时空姐发现一位女乘客眼中泛着泪花，她递给了她一条凉毛巾。
- 22) * 他们的双打水平还是没提高，于是请育青中学的黄金搭档教他们双打。
他们的双打水平还是没提高，于是请育青中学的黄金搭档教他们们双打。

例20は述目構造の動詞句の目的語が欠落している。中国語の“打败”は目的語（対象）を取る場合、“及物动词”と呼ばれ、「打ち負かす」の意味になるが、目的語を取らない場合、“不及物动词”と呼ばれ、「負ける」の意味になる。例20の文脈によると、“路夏”は“张百杨”を打ち負かす戦略を立てたということで、目的語を用いて相手を明示しなければならない。

例21、22は二重目的語の間接目的語（受益対象）が抜けている。日本語には「授受表現」があり、その対象を明示しなくても、「～シテアゲル／～シテクレル」で受益の方向を表せるが、中国語にはそれに相当する体系的な授受表現がなく、明確に「受益対象（誰に）」を補う必要がある。恐らくこの誤用も「母語の負の転移」に起因すると考えられる。勿論、中国語にも間接目的語を省略できるケースはある。例えば、“我教汉语（私は中国語を教えている）”では「何を」（内容）に主眼があり、「誰に」（対象）は重要ではない。このような場合に間接目的語を省略することはある。しかし、例21、22については、その文脈において受益者（女性の乗客と

彼ら)が判明しているため、間接目的語(受益対象)に言及しなければならない。

以上を踏まえて、今後は教材の内容を充実させ、教授者の参考書、副教材を用いて解説を強化し、学習者が「目的語を取る動詞、取らない動詞」及び「二重目的語」への理解を深めるよう尽力しなければならない。

2.6 日本語の漢語、造語等の使用(誤用数:9か所 原因:学習不足)

23) * 这篇小说是在一次航班上担任乘务员工作的人写的。

这篇小说是一名空姐⁵⁾写的。

24) * 小邱喜欢她单位的一个男性。

小邱喜欢她的一个男同事。

このタイプの誤用は「語彙力の欠如」が原因であることが明白である。“男+学生”は、“男生(男子学生/生徒)”という既成語を知らない学習者によって造語された。また、日本語の「専門家」を簡体字に変換しただけの“专门家”も、既成語の“专家(専門家)”を知らない学習者によって造語された。さらに、“富翁二代”も学習者の造語で、既成語の“富二代(金持ち二世)”を知らなかったか、不十分な知識によって作られた。

ほかに、例23、24のように、語彙不足から適正な表現に至らず、回りくどい句によって、その意味を代替しようと試みた例がある。一定の構文知識がある中上級の学習者ならではの苦肉の策ともいえる。果たして誤用か、との異論もあるかもしれないが、他にふさわしい単語、句がある以上、誤用として扱うべきだと判断した。

張博(2008:164-166)では、学習者の「一人」造語の問題を取り上げている。

- a) 英語の影響。“*买人(buyer)” “*政治人(politician)”
- b) 「ヒト」を表すほかの形態素を知らない。“*服务人” “*聋人”
- c) 二音節形容詞が“一人”と結合しにくいという語構造の規則を知らない。“*幸福人” “*不聰明人”

中国語学習において、教材も教員も、当然ながら学習者も述語動詞・形容詞を中心にその前後に来る副詞、助動詞、前置詞や助詞などの習熟に重点を置き、名詞、特にヒトを表す名詞を軽視しているように見受けられる。

冒頭でも触れたように、言語生活の主体は「ヒト」であり、「ヒト表示」

に関する言語が多くなるのは必然である。しかし、学習者の言語の習熟度を観察すると、構文は正確で、応用力も高い学習者が、一方で「ヒト表示」に関する語彙力が脆弱であるなど、学習の不均衡を実感する場面が多い。極めて残念だと言わざるを得ない。

語彙力を向上させるための手段の一つとして、中上級の教材に、「語構成論」を盛り込むことを提案したい。ここで語構造の規則を学び、語彙の集中的習得が可能になる。具体的には、袁 (2014: 162) を参照されたい。

もう一点、地道ではあるが「大量閲読」を勧めたい。語彙力を高めるには教材だけでは限界があり、教学の段階で補完しなければならない。教授者は学習者に関連書籍を推薦し、閲読、学習報告の課題を増やすことが必要である。また、定着している「新語」に目を向けるよう助言することも効果的であると考えられる。

2.7 一们 (誤用数：7か所 原因：学習不足)

25) * 现在爱凑热闹的人们太多了。

现在爱凑热闹的人 ϕ 太多了。

“一们 (一達)” はヒトを表す名詞や代名詞の後に付けられる接尾辞である。一見簡単そうに見えるが、誤用例はかなりある。楊徳峰 (2008: 1-2) では、a “*三个学生们” b “*努力学习的学生们不太多” の例を挙げている。また、張博 (2008: 27) では、c “*许多人们” のように、“多” の後に“人们” を誤用する傾向が高いと指摘している。

a は「英語の負の転移」と考えられるが、中上級の学習者はこのような初歩的なミスは、今ではほとんど犯さない。例25は、上記bの例と酷似していて、“多” と共起すると、“们” を付けたくなる傾向が読み取れる。

上記の例25“爱凑热闹的 (人の輪に加わりたがる)” とb“努力学习的 (勉学に励む)” は、共にその後の総称“人” “学生” を「限定」する意味機能の連体修飾語である。この場合、“人” と“学生” は、複数形とすることはできない。一方、「修飾」の意味機能の連体修飾語が付加している場合には、“人” に“们” をつけることができる。例えば、“有说有笑的人们 (しゃべったり、笑ったりする人々)” となる。

「連体修飾語」の意味機能については、「修飾」か「限定」か、その見極めが重要である。教授者もこの点に留意して伝えなければならない。

2.8 字形(誤用数: 7か所 原因: 学習(注意)不足)

ここでの誤用は“他/她”と“他们两”(正用は“他们俩”)に集中している。初級の学習者にとっては、字形が近いため混同しやすい(張博2008: 19)。しかし、中上級の学習者においては、単純な入力ミス、入力後の確認不足であると考えられる。従って、ここで特筆することはない。

2.9 主語(誤用: 6か所 原因: 負の転移)

- 26) ※ 一名老婦人说“让我来抱抱吧。”φ将婴儿的脸颊紧贴在自己的胸口，唱起了摇篮曲。
一名老妇人说“让我来抱抱吧。”她将婴儿的脸颊紧贴在自己的胸口，唱起了摇篮曲。
- 27) ※ 他们俩互相拥抱，希望φ幸福，然后友好地分手了。
他们俩互相拥抱，希望对方幸福，然后友好地分手了。
- 28) ※ 李貌告诉他φ给妈妈留下了深刻而良好的印象。
李貌告诉他他给妈妈留下了深刻而良好的印象。
- 29) ※ 队长说φ跟学长和顾问发生了争执，受到停学的处分。
队长说他跟学长和顾问发生了争执，受到停学的处分。

主語に関する誤用は二種類、「余剰」と「欠落」である。「余剰」は、談話の中の誤用として、特に顕著である。主語の余剰はくどく感じさせるため、適宜に削除したり、人称代名詞や「指示代名詞+ヒトを表す名詞」を活用したりすることによって解決できる。具体的には「ヒト指示」篇で詳述することにし、ここでは、「欠落」だけを取り扱う。

例26については「母語の負の転移」が原因であると推測する。吳麗君(2005: 285)によると、日本語の叙述体文章では、話題群と話題群の間で、(名詞、人称代名詞の)省略形が多く用いられると指摘している。例26を日本語に訳してみる。

「この時、老婦人が私にちょっと抱っこさせてと言った。赤ちゃんの頬ぺたを自分の胸にくっつけて、子守唄を歌い出した。」

中国語の場合、前文は「。」で完結し、新たな文をスタートさせる時には、主語“老妇人(老婦人)”を付さなければならない(主語は、“那位老妇人(その老婦人)”でも、“她(彼女)”でもよいが、省略はできない)。

楊徳峰(2008: 228)も主語欠落の問題を指摘しているが、以下の観点は

なかった。例27、28、29で欠落したのは、目的語の中の主語である。「目的語」は「語」と書いて、実は「語」限定ではない。実際には、文が目的語に充当するケースもしばしばある。例えば、“我想如果我中了十亿日元，那么我马上辞掉工作，在北海道、东京和冲绳三处买房，春秋住东京，夏天去北海道，冬天去冲绳。然后开一家古董店，时而去欧洲进进货，如有时间再学学画画，还…（もし、私に10億円が当たったら、すぐに仕事を辞め、北海道、東京、沖縄の三か所で家を買、春秋は東京、夏は北海道、冬は沖縄に住み、それから、骨董屋を開き、時にはヨーロッパへ仕入れに行き、もし時間があれば、絵も習ってみたい、さらに…と思っている。）”では、下線を引いた…が終わるまでの長文（妄想が続くため、…で表記）がすべて述語“想（思う）”の内容で、つまり「目的語」である。この長文（目的語）にも、当然「主語（“我”）」を置かなければならない。

例27、28、29の通り、日本人学習者の作文コーパスから、目的語に付すべき主語が抜けている例が多く観察された。日本語はよく「以心伝心」の言語と言われ、主語省略はしばしばある。日本人学習者は中国語学習の初級段階では、主語の重要性を教え込まれるためか、主語の使用に非常に気を付けているように見える。しかし、それは単純構文まで。例28、29のような複雑な文構造になると、第一階層の主語だけに気配りし、第二階層の主語にまで気が回らなかったのではないかと推断している。

今後、例26のケースについては、教授者が日中対照の観点に基づいて作文指導をする必要があり、例27、28、29のケースについては、教材の中に、様々なタイプの目的語（長文タイプを含む）を例示することが重要ではないかと考える。

2.10 関係名詞（誤用：5か所 原因：負の転移）

30) ※ 他说伊丽不是 ϕ 女朋友。

他说伊丽不是他女朋友。

31) ※ 空姐以为小男孩是老奶奶的孙子，可是，他并不是孙子。

空姐以为小男孩是老奶奶的孙子，可是，他并不是老奶奶的孙子。⁶⁾

32) ※ 一天，尚晋跟李貌一起去见她父母，父母却以批判的态度对待他。

一天，尚晋跟李貌一起去见她父母，她父母却以批判的态度对待他。⁷⁾

“女朋友（ガールフレンド）、女儿（娘）、父母（両親）”のような名詞は

「関係名詞」と呼ばれる(張斌2010: 82)。その名の示す通り、関係性を表し、中国語では、文中に「誰の」と明示することが必要とされる。例えば、例31、32のように、前節で“老奶奶的孙子(おばあちゃんの孫)”“她父母(彼女の両親)”と述べた後も、それに続く後節においても再度、明確に述べる必要がある。

一方、日本語には敬語の体系があり、謙譲語と尊敬語(例えば「両親」と「ご両親」、「妻」と「奥様」など)で関係性が明らかになり、これによって「誰の」は不必要な場合が多い。そこで、この誤用についても「母語の負の転移」によるところが大きいと考えられる。

この誤用の対応策としては、まず、教材に「関係名詞」を明記すること、そして文法項目として取り上げるよう促したい。現行の教材では、新出単語欄に「名詞」などとして、品詞の大分類のみを注記し、下位分類の注釈まで言及しない。しかし、これらの誤用を防ぐためにも、「関係名詞」の注記の必要性を訴えたい。また、教授者が関係名詞の記述と、その練習問題のある参考書を学習者に提示したり、自作の副教材によって補足説明を加えることが必要だと考えている。

2.11 重複(誤用数: 5か所 原因: 負の転移)

33) ※ 燕国的燕太子丹一直想着报复秦王。

燕国的 ϕ 太子丹/ ϕ 燕太子丹一直想着报复秦王。

34) ※ 所以她有很多看她的文章的读者。

所以她有很多 ϕ 读者。

例33では、“燕太子”は「燕国の太子」を意味する。このため、上記のように二通りの修正が考えられる。例34の「読者」の語彙意味には、「文章を読む」という意味が既に組み込まれているため、中国語では、「重複表現」と判定される。日本語は「重複」表現に対してやや寛容である印象を受けるが、「重複」も一つの誤用である。

「重複」の誤用に関しては、教授者の作文指導の際に、日中の語感の差異についても詳細な解説が必要とされる。

2.12 区別詞(誤用数: 4か所 原因: 負の転移)

35) ※ 一天, 一个叫工藤的男来了靖子那儿。

- 一天，一个叫工藤的男子来了靖子那儿。
36) * 这是一位叫三毛的女性写的一封信，三毛是作家。
这是一位叫三毛的女作家写的一封信。

“男”“女”は現代中国語の品詞体系の中で「区別詞」に属し、単独では用いられない（*一个男）。主語、述語、目的語のような文の主成分になることはなく（*男很辛苦、*她很女、*他是男）、連体修飾語にしか充当できない（男人、女医生）。（相原2016: 54-55, 张斌2010: 169-173）

例35は区別詞を名詞として使用した誤用例である。これも日本語においては、「男」「女」は名詞であるため、学習者が「母語の負の転移」によって誤用したと推測される。

例36は本来、区別詞を使用すべき所、使用されなかった誤用例である。学習者に区別詞に関する知識が不足していたことによるものである。

それでは、なぜ、区別詞の知識が乏しいのか。その主たる原因は、「教材」にあると考えている。中国語学習者の必携である《現代汉语词典》でさえ、品詞を注記するようになったのは第六版（2012）からである。古い中国語教材では品詞注記が抜けていることが多々ある。近年の教材ではこの点についてかなり改善されてきたが、新出単語欄での「区別詞」の注記に留まり、語彙・文法項目の説明箇所では「区別詞」の文法機能や用法につて、説明文も練習問題も設けていない。それが現状である。

一方、教授者も教材の内容を忠実に伝授するのみで、「区別詞」に関しては、補足説明をしない、または不十分であると推測できる。

対応策としては、教授者は、不完全な教材の補助として、区別詞の記述と練習問題のある参考書を学習者に提示するか、あるいは、教授者が自作の副教材で区別詞の知識を補うことが求められる。

2.13 名詞句と複合名詞（誤用数：4か所 原因：負の転移）

“有的无的（‘的’が付く名詞句と‘的’が付かない複合名詞）”問題はかつて今も、中国語教育と研究においての代表的な課題である。多くの教科書が初級段階からこれを取り上げていて、相原（2016: 35, 158）は次のように述べている。「連体修飾語の“的”は以下の場合では省略される。
a 緊密に結びついて熟語化しているような場合。“汉语老师（中国語の先生）”
b 人称代名詞+家族や人間関係・所属集団名。“我朋友（私の友達）”、

“我们学校(私達の学校)”。また、日本語の助詞「の」に相当するものとして、日本人学習者はついつい“的”を使ってしまっても指摘している。

狄昌运(1996: 32)、杨德峰(2008: 164-165)でも、“的”の誤用について説明している。本稿で見られた誤用例の中にも、“*他的妈妈”、“*国民的女神”など同じタイプの誤用があった。正しくは“他妈妈(彼の母親)”、“国民女神(国民の女神)”である。「母語の負の転移」がここでも顔を出す。

上記の相原(2016: 35, 158)に関連して、bについては具体的で比較的理解しやすいが、aについては「緊密に結びついて熟語化している」というだけでは、学習者にはコツが掴めない。一つ一つ個別に覚えるしかないのか。筆者はもっと的確な別の説明方法を模索すべきだと考えている。例えば、複合名詞による呼称、命名(naming)や複合名詞による下位範疇化(subcategorization)の観点を導入することによって、より理解は進むと確信している。

2.14 形態素(誤用数: 2か所 原因: 学習不足)

37) *曲筱绡的哥哥早就在她爸爸公司上班了, 而且职位比较高。现在她也来这里上班了, 于是哥妹的竞争开始了。

曲筱绡的哥哥早就在她爸爸公司上班了, 而且职位比较高。现在她也来这里上班了, 于是兄妹的竞争开始了。

“兄”は現代中国語においては、「非単純語構成形態素」(朱徳熙1995: 4)であり、単独では語とならない。他の形態素と結合して合成語を構成するしかない。同じ意味の“哥”は「単純語構成形態素」(朱徳熙1995: 4)であり、単独で語となりえる。中国語学習の初級段階では、“哥哥”を“*兄兄”、“我哥(私の兄)”を“*我兄”とする学習者が多く(ここでは、“哥”は単独の語として使用)、その間違いを指摘されると、次には“兄”の使用を回避するようになる。その結果、例37のように“*哥妹”と書いてしまったと推測できる。因みに正用の“兄妹”では、“兄”は語構成の要素である。

「ヒト表示」の場合のみならず、現代中国語では、同義の二つの形態素が「単独使用用」と「語構成用」とに分業されることが多い。例えば、「いい」を意味する二つの形態素、“良”と“好”の間では、“良”が語構成専用である。これらの「語構成論」の知識がないと、このタイプの誤用はなくなるならない。従って、本稿は、早い段階から、教材に「語構成論」の内容

を盛り込むことを提案したい。教授者にとっても「語構成」の知見は教授法を広げる大きな武器になるのではないか。理論的な学びは学習者にとっても遠回りではなく、「急がば回れ」の通り、一番の近道であると考えている。

2.15 日中同形語（誤用数：2か所 原因：負の転移）

語彙レベルの誤用研究の中では、日中同形語に関するものが最も多い。詳しくは吳麗君（2008: 142-146, 340-349）、王順洪（2008: 111-121）などを参照されたい。本稿では、いずれの先行研究においても言及されている“先輩（「先輩」のつもりで使用したが、中国語では、「先人」か「年長者」を意味する）”の例以外に、“候補（「候補」のつもりだが、中国語では「欠員の候補」の意味に限定される）”の例を示して、これ以上の検討はしない。

2.16 その他（計7か所）

- 38) ※ 这周我看的故事是日本儿童作家宫泽贤治写的。
这周我看的故事是日本儿童文学作家／童话作家宫泽贤治写的
- 39) ※ 有个叫刘的有钱人
有个姓刘的有钱人
- 40) ※ 我爸爸和我妈妈喜欢旅游。
我爸爸妈妈喜欢旅游。

ここまでの15類型で取まらなかった誤用を「その他」に分類した。例えば、例38はロジックの間違い、または単純な入力ミス、例39は姓名に関する動詞の混同、例40は簡潔さを欠く表現である。誤用頻度はそれほど高くなく、個別分析はせず、例示するに留める。

3. まとめ

3.1 総括

中上級の中国語教育においては、学習者は、基本の語彙、文法項目を習得した上、より大きな単位である談話で「叙事」を扱う際に、「語」「文」「談話」の三つのレベルにおいて、様々な誤用を犯す。

本稿は、特にその中の「ヒト表示」に関連する誤用、具体的には、「小説」

「映画」「ドラマ」のあらすじを内容とした中上級の学習者の叙事作文の中から、「ヒト表示」に関連する15大分類、17小分類の誤用を収集し、誤用の頻度が高い順に、その原因を究明し、それに合わせた教育現場への示唆、提言を行った。

15大分類中、2.1「同格語」⁸⁾、2.4「登場人物・役者等の紹介文」、2.5「目的語」、2.7「一們」、2.9「主語」、2.10「関係名詞」は、「ヒト表示」に特有の誤用であり、それ以外の誤用は「叙事作文」中に多くみられたが、これらは全般に敷衍しても言い得ることである。また、誤用の原因については、「(母語が英語の)負の転移」「過剰一般化」「学習不足」の三つに分かれ、「負の転移」による誤用が最も多いことが分かった。

本稿の分析を踏まえ、同格語、紹介文、関係名詞、区別詞、造語などの分野に中国語教育の「盲点」「弱点」があると指摘し、原因究明とそれを手掛かりにした教材と教授法の改善案を的確に提示することができた。列挙した原因とその対策が教学現場の一助になることを願っている。

本稿の最も重要な点は、学習者の誤用の内に教授者側にも原因の一端があることを明らかにし、「理論的な教え」の重要性を指摘したことである。急がば回れ。「理論重視」は「誤用」を減らす近道であり、中上級の学習者や大学教育を終えてからの中国語の生涯学習の礎にもなると主張したい。

3.2 課題と展望

本稿においては、以下の課題が残された。a 誤用分析は、学習者の言語能力を知る有効なデータであるが、学習者が誤用を避けるために、不得意な表現を回避する可能性があるため、本稿で集めた誤用が「ヒト表示」に関連する誤用を網羅したものとは言い難い。今後も誤用の収集と観察を継続したい。b 提案に関しては、紙幅の制限により、具体性がやや欠如している。今後、その補完に注力したい。c 本稿は原因の解明と教育的方策の提示に重点を置き、語彙・文法規則の解明まで至っていない。「ヒト表現」に関する誤用の教育基礎研究を通して、関連分野の中国語文法の研究への問題意識と意欲がさらに高まった。今後、多岐に亘る誤用のコーパスを充実させ、語彙・文法規則の解明にまで研究を広げ、深化させていきたい。

本稿ではデータ収集のみで別稿に預けた「ヒト指示(主に人称代名詞、指示代名詞+ヒトを表わす名詞)」に関する誤用分析は、「ヒト表示」に比

べ、よりコンテキストに着目する談話文法 (discourse grammar) と密接な関係がある。照応 (anaphora)、省略 (ellipsis)、結束性 (coherence) などの観点からの分析が主たる内容になる予定である。

注

- 1) 英語を母語とする中国語学習者を研究対象としている。
- 2) 本稿で「誤用」とは、エラー (誤り error) とミステイク (間違い mistake) の両方を指す。ミステイクには単純な入力ミスも含む。また、中国語として不相当と判断した場合も誤用とした。
- 3) 「母語や英語からの負の転移」を言語間エラー (interlingual error) と呼ぶ。
- 4) 「過剰一般化」のような誤用を言語内エラー (intra-lingual error) と呼ぶ。
- 5) 男性の場合は、“空中先生 (男性の客室乗務員)”。
- 6) 以下の修正文も可能。“空姐以为小男孩是老奶奶的孙子, 可是, 他并不是 ϕ 。”前節の繰り返し部分を全て消去し、簡潔になる。
- 7) 以下の修正文も可能。“一天, 尚晋跟李貌一起去见她父母, 他们却以批判的态度对待了他。”前節の繰り返し部分を回避し、簡潔になる。
- 8) 同格語は「ヒト表示」だけではないが、誤用は「ヒト表示」のみに現れている。

参考文献

- 相原茂 石田知子 戸沼市子 (2016) 『Why? にこたえるはじめての中国語の文法書新訂版』同学社
- 袁晓今 (2014) 「現代中国語三音節名詞の構造と意味」大阪大学言語文化研究科博士論文
- 袁晓今 (2021) 「現代中国語における名詞の時間性」愛知県立大学外国語学部 紀要 (言語・文学編) 第53号 pp. 169-189
- 吴丽君他著 西川和男編訳 (2005) 『中国語の誤用分析—日本人学習者の場合—』関西大学出版部
- 朱德熙著 杉村博文 木村英樹訳 (1995) 『文法講義 朱德熙教授の中国語文法要説』白帝社
- 長友和彦 迫田久美子 (1988) 「誤用分析の基礎研究 (1)」教育学研究紀要第二部 第33巻 中国四国教育学会 pp. 144-149
- 原沢伊都夫 (2012) 「日本語初級学習者の作文指導: 学習者の誤用分析をもとに」静岡大学国際交流センター紀要 第6巻 pp. 79-92

- 狄昌运编 冈田胜译 (1996) 《怎样说得对?—日本人汉语学习中常见错误辨析》
北京语言学院出版社
- 鲁健骥 (1984) 「中介语理论与外国人学习汉语的语音偏误分析」《语言教学与研究》第3期 pp. 44-56
- 王顺洪 (2008) 《日本人汉语学习研究》北京大学出版社
- 杨德峰 (2008) 《日本人学汉语常见语法错误释疑》商务印书馆
- 张斌主编 (2010) 《现代汉语描写语法》商务印书馆
- 张博等著 (2008) 《基于中介语语料库的汉语词汇专题研究》北京大学出版社

关于日本学生在学习汉语时出现的与“表人”相关的偏误分析

袁 晓 今

摘要

通过笔者的教学实践发现,日本学生在学习汉语时到了中高级阶段后,在叙事写作上存在着许多“与人相关”的偏误。

本研究从汉语专业的三四年级的11名学生提交的关于小说、电影、电视剧的故事梗概的叙述作文的10周学习报告中共提取“与人相关”的偏误176处,其中“表人相关偏误”113处,“指人相关偏误”63处。关于“指人相关偏误”,将另行撰文做专题探讨。

本稿以“表人相关偏误”为研究对象,不同以往以词、句、篇章的范畴进行偏误分析,而是根据“表人相关偏误”的出现频率高低,从高频到低频,分别指出偏误的类型、偏误的原因,然后逐一给出对教材的改进以及对教员的授课指导建议。

本稿一共指出15大类、17小类的偏误。其中特别对“表人”特有的偏误,如:不会使用同位语;不符合汉语介绍出场人物和演员等的惯例;关系名词的关系不明等偏误以及高频偏误,如:表出现的句子中缺少数量词;缺少目的语中的主语;缺少双宾语中的间接宾语;随便造词;混淆近义施事名词;不会运用区别词等先行研究薄弱的地方着重进行了分析。在逐一指出各项偏误的产生原因之后,针对其特点提出了一些有效可行的建议,但由于篇幅所限,提议略显笼统,今后有必要进一步完善。最后本稿特别强调要加强对中高级学生的汉语理论教育。希望以上这些分析与建议能对日本学生的汉语教学有所帮助。